SDGs JAPAN SCHOLARSHIP
岩佐賞

第5回「SDGs岩佐賞」受賞者発表！

つなげよう、
地球の未来。

公益財団法人
岩佐教育文化財団
代表理事　岩佐 実次

私は若い頃、家庭の事情で生活が苦しく、周囲の支援を得てなんとか大学を卒業しました。その後、事業を興し大きな会社へと育て上げましたが、自らの利益ばかりを追いかける経済一辺倒な社会であってはいけないという信念をずっと持ち続けています。
「誰かのために」と地道に頑張っている人の役に立ちたい、暗いニュースが先行しがちな世の中を少しでも明るくしたい、という思いで、今後もSDGs岩佐賞の活動を続けていきます。次回も多くのご応募をお待ちしています。
岩佐実次

目の前の課題に真摯に向き合い、SDGs達成に向けて活動している人たちを応援したい――。そんな思いから、公益財団法人岩佐教育文化財団が2022年に創設したのが「SDGsジャパンスカラシップ岩佐賞」（SDGs岩佐賞）です。
第5回の応募総数は646件。厳正な審査を経て、全8部門30団体の受賞が決定しました。すべての受賞者の活動詳細と喜びのコメントは、朝日新聞SDGs ACTIONに掲載しています。
来月からは、第6回「SDGs岩佐賞」のエントリーが受け付け開始。岩佐教育文化財団はこれからも、SDGs達成のために地道な努力を重ねるみなさんを応援し続けます。

医療の部

一人で悩まないで! アトピーの記録・情報交換アプリを開発

アトピヨ合同会社
（代表者 赤穂亮太郎さん）

賞金 500万円

アトピーの皮膚症状を匿名で記録・共有できる日本初のアプリ「アトピヨ」を開発しました。患部の写真をコメントとともに投稿するので、症状の管理がしやすく、医師への説明にも便利。ほかの人の投稿を部位や症状ごとに検索・閲覧でき、情報交換の場にも。ダウンロード数は2万7千件（2024年8月時点）に達しています。

災害時の深刻なトイレ不足、自治体の相互連携で解消図る

一般社団法人助けあいジャパン
（代表者 石川淳哉さん）

賞金 500万円

災害発生当初の避難所では、清潔で安全なトイレが50人につき一つの要とされていますが、その備えは不足しています。そこで、全国774の市区町村がトイレトレーラーを白子つ常備し、災害時に集結する「災害派遣トイレネットワーク　みんな元気になるトイレ」の仕組みを構築。現在、県を合さ220の自治体が参画しています。

アジアの子どもたちに医療支援を病院をつくり、人材育成にも尽力

NPO法人フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーJAPAN
（代表者 赤尾和美さん）

賞金 300万円

1999年にカンボジアに、2015年にラオスに、それぞれ小児病院を開院。新生児から15歳までの子どもに24時間体制・原則無料で医療を提供しています。病院運営の現地化を見据え、医療従事者の育成にも注力しています。

医療的ケア児とその家族に忘れられない「旅」の思い出を

一般社団法人KYOTANGO THREAD CARAVAN
（代表者 小谷奈穂さん）

賞金 200万円

医療的ケア児とそのきょうだい、親にも、家族旅行の思い出を作ってほしい、そんな思いから、宿泊施設のバリアフリー化や近隣の小児科医師との連携などに取り組んでいます。昨年度は総勢51人に旅行を楽しんでもらいました。

教育の部

バングラデシュの少女に、人生の選択肢を広げる教育を

認定NPO法人シャプラニール=市民による海外協力の会
（代表者 坂口和隆さん）

賞金 300万円

バングラデシュには、家事使用人として他人の家で働かされ、学校に通うことができない少女が大勢います。私たちは、8～18歳の少女のための「支援センター」を首都ダッカに8か所設置。のべ1430人に基礎的教育を実施してきました。

ガーナで公立学校を開校・運営 貧困の連鎖断ち切り未来を変える

NPO法人CLOUDY
（代表者 鄒治勇人さん）

賞金 300万円

貧困から脱するには教育・雇用・健康面の支援が不可欠です。私たちはケニアとガーナで、計7校の学校設立・運営に携わってきました。さらに今後4年間で西アフリカ最大のゴミ山がある地区に計3200人が学べる学校を開校すべく、準備中です。

水俣の農家や漁師たちの姿を地元の高校生が取材し発信

水俣食べる通信
（代表者 諸橋賢一さん）

賞金 200万円

農家や漁師などの声を届ける「情報誌」と「食材」をセットにした定期講読サービス「食べる通信」の水俣版を創刊。いまは熊本県立水俣高校の生徒が主体となって制作中。持続可能な社会づくりに貢献する人材が育ってほしいです。

「食」「エネルギー」「国際理解」ESDの視点で総合的に探究

秋田県大仙市立大曲南中学校ESD研究部
（代表者 島田智さん）

賞金 100万円

中学校で秋田県内唯一のユネスコスクールである本校では、2007年から持続可能な開発のための教育（ESD）に注力。「食と住」「エネルギーと気候変動」「国際交流とSDGs起業」をテーマに、教科等横断的な学習を実践しています。

科学の面白さを広めたい! 離島や中山間地へも出前授業

NPO法人新潟の科学・自然探偵団
（代表者 坪川紀夫さん）

賞金 100万円

離島や中山間地の小中学校や公民館、障害のある子どもが通う学校などを訪問し、新潟大学の学生らとともに、出前型科学実験教室「サイエンス・サーカス」を開催しています。これまでにのべ約1万3千人が参加してくれました。

福祉の部

経済格差を教育格差にしない! すべての子どもに学ぶ場を

認定NPO法人キッズドア
（代表者 渡邉由美子さん）

賞金 500万円

キッズドアは2007年の設立以来、教育格差などを解消するための「学習支援・居場所支援」、困窮する子育て家庭を支える「ファミリーサポート」、そして「調査・提言・啓発」という主に三つの活動に力を入れました。近年、子どもの貧困問題の認知度こそ上がりましたが、支援はまだまだ足りていません。今後も頑張ってまいります。

生きるのがつらい子ども・若者に安心して利用できるWeb空間を提供

NPO法人自殺対策支援センターライフリンク
（代表者 清水康之さん）

賞金 500万円

「この世から消えて楽になりたい」という人に、「でればよかったのに」と言われてしまいました。「でれば、まずは一度この世からかんがえてしまいましょう」と提案するのが、匿名・無料で24時間いつでも安心して利用できるWeb空間「かくれてしまえばいいのです」です。2024年3月のローンチ以降、わずか1カ月でアクセス数は200万を超えました。今後も社会へ啓発を続けていきます。

がんとともに生きる人に、病院以外の居場所と支援を

認定NPO法人maggie's tokyo
（代表者 秋山正子さん（左）、鈴木美穂さん（右））

賞金 500万円

がん経験者、家族、友人、遺族、医療関係者など「がんに診断を受けた人」が、再び自分の力で歩んでいけるよう支援をする活動を続けています。予約不要・無料で、看護師や保健師、心理士、管理栄養士などの専門職と友人のように話をしたり、グループプログラムに参加したり、図書室に来て休憩で、のべ約4万人もの人が利用しています。

AIで転倒リスクを可視化 介護士の見守り負担を軽減

Rehabilitation3.0株式会社
（代表者 増田浩和さん）

賞金 500万円

作業療法士として20年間働いた経験から、介護現場の労働力不足を実感しました。「不要な見守り業務をゼロにすること」を目指してAI研究に取り組み、ついに転倒ハイリスク者を可視化するアプリ「Reha3.0（リハサン）」をリリース。テスト導入した施設では、転倒事故が発生しなかったうえ、介護職員からも負担が軽減したと喜びの声が上がっています。

環境の部

生態系の要となる花バチ全国にすみかを作り、守る

NPO法人ビーフォレスト・クラブ
（代表者 吉川浩さん）

賞金 500万円

近年、日本の固有種であるニホンミツバチをはじめ野生の花バチが激減したといわれています。生物多様性の維持に重要な役割を果たす花バチ保護に向け、日本各地の森や農園に巣箱やハナ粉を設置し、繁殖環境の整備に取り組んでいます。

マイクロプラスチックの流出メカニズムを特定

株式会社ピリカ・一般社団法人ピリカ
（代表者 小嶋不二夫さん）

賞金 500万円

マイクロプラスチックの問題を根本から解決するため、採取手法と分析技術から独自に開発。国内100か所以上の水域を調査した結果、人工芝やコーティング肥料由来のマイクロプラスチックが多いという事実を突き止めました。

リサイクル率わずか2%の寝具 回収・再生素材化する新ビジネス

株式会社yuni
（代表者 内橋堅志さん）

賞金 400万円

寝具のリサイクル率は低く、大半が焼却処分されていました。そこで、不用になった寝具を回収し新たな素材として再生する事業「sustech（サステク）」を創設。再生素材は、断熱防湿やアイリスオーヤマ、しまむら等でも採用されています。

湖の恵み「オゴノリ」を活用し持続可能な循環を再構築

認定NPO法人自然再生センター
（代表者 松本一郎さん）

賞金 100万円

島根と鳥取にまたがる湖・中海では、海藻「オゴノリ」が過剰に増え、水質悪化の原因に。そこで、漁師によるオゴノリ刈り、オゴノリを活用した土壌改善、その堆肥の農作物栽培などを実施。この輪をさらに広げていきます。

経済の部

難民やシングルマザーを「デジタル人材」へと育成

一般社団法人Robo Co-op（代表者 金辰泰さん）

賞金 500万円

祖国を追われた難民や、相対的貧困に苦しむシングルマザーを対象に、デジタルスキルの教育プログラムをオンラインで提供。デジタル人材として育成し、経済的自立を促す社会事業などとなっています。事業開始からわずか3年で、国内外のべ570人以上に教育プログラムを実施。年収が上がったうえリモートワークで子育てしやすくなった、という日本のシングルマザーや、シリコンバレーのIT企業からの案件で活躍するようになったアフガニスタンの難民女性もいます。

難民人材と企業をマッチング 新たな価値創出に期待

NPO法人WELgee（代表者 渡部カンコロンゴ清花さん）

賞金 500万円

紛争や迫害から逃れて日本にやってきた難民を「人材」と捉え、日本の企業とのジョブマッチング活動を2016年からおこなっています。これまでに累計40件（2024年6月末時点）のジョブマッチングが達成され、一人ひとりのスキルやパッションに合った就職がかなえられてきました。難民人材は、イノベーション創出の起爆剤にもなりうるでしょう。これからも「自らの境遇にかかわらず、ともに未来を築ける社会」を目指して活動を続けていきます。

平和・人権の部

障害者や高齢者との壁を越えて「対等な対話」を楽しむ体験を

一般社団法人ダイアローグ・ジャパン・ソサエティ（代表者 志村季世恵さん）

賞金 500万円

完全な暗闇空間の中、視覚以外の感覚を使って様々な場面を体験する「ダイアログ・イン・ザ・ダーク（暗闇の中の対話）」。1999年の日本上陸以来、24万人以上が体験しており、いまは東京・竹芝の常設型施設でも開催しています。その後、「ダイアログ・イン・サイレンス（静けさの中の対話）」「ダイアログ・ウィズ・タイム（生き方との対話）」という新プログラムも実施。唯一無二のソーシャルエンターテインメントを今後も広めていきます。

性暴力被害者に支援つなげたい「その後」に役立つ情報を発信

一般社団法人THYME（代表者 卜田素代香さん）

賞金 500万円

THYME（タイム）は、性暴力被害の当事者が立ち上げた、被害者支援のためのWebサイトです。被害に遭った際の相談先、被害直後に取るべき行動、警察での聴取や裁判について、PTSD治療の情報など、性暴力被害の「その後」に必要な情報をわかりやすく発信しています。2020年12月のサイト開設後、ページビュー数はすでに34万超。専門家を招いた講演やワークショップも開催しています。今後は、長期にわたる支援の仕組みも構築していきます。

芸術・スポーツの部

義足ユーザーに「走る楽しさ」届けたい! 高性能で安価なスポーツ用義足を開発

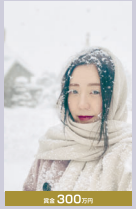
株式会社Xiborg（代表者 遠藤謙さん）

賞金 2,000万円

Xiborg（サイボーグ）では、世界最速の義足アスリートの誕生を目指し、カーボン製の「ブレード」と呼ばれるスポーツ用義足を開発してきました。そのノウハウを生かし、一般の義足ユーザーが気軽に使える妥協なプレードを開発。つけ方や走り方をレクチャーする「ランニングクリニック」を定期的に開催し、これまでにのべ500人以上が参加してくれました。近年は、ラオスやブータン、シエラレオネなどでも、現地の義肢装具士とともに活動しています。

廃棄野菜で「おやさいクレヨン」開発 青森でアートと食育に触れる絵画展も

mizuiro株式会社
（代表者 木村尚子さん）



賞金 300万円

「ほうれん草」「ごぼう」「にんじん」などの名前がついた「おやさいクレヨン」を開発。規格外や廃材の野菜、米ぬかなどを使ってお子ども向けに入れても大丈夫、発売から10年間で累計17万箱を出荷しました。2016年・17年には、青森県立美術館で「100人のおやさいクレヨン展」を開催。国内外のアーティスト100人の作品を一堂に展示しました。

新潟・越後妻有の芸術祭で誕生 廃校を利用したアート空間で集落活性化

NPO法人越後妻有里山協働機構
（代表者 北川フラムさん）

賞金 200万円

写真提供：十日町観光協会

越後妻有「大地の芸術祭」の廃校プロジェクトの一つとして誕生した「妻&出烏征二　絵本と木の実の美術館」。校舎の周囲には ビオトープや小川をつくり、やがて創作、子どもたちの生き物観察や、地域住民の交流の場となっています。

障害児やその家族にも演劇鑑賞の喜びを届けたい

NPO法人シアターブランニングネットワーク
（代表者 中山夏織さん）

賞金 200万円

障害児や医療的ケア児らとその家族のために、音楽や光、風、身体表現など様々な感覚に訴えかける「多感覚のライブパフォーマンス」を上演しています。2023年度は、107組の家族に演劇鑑賞のひとときを楽しんでもらいました。

浪江町の「記憶」と「未来」を異彩を放つ屋外アートで表現

一般社団法人NoMAラボ
（代表者 高橋大就さん）

賞金 200万円

原発事故で全町避難を余儀なくされた福島県浪江町。歴史や伝統を大切にしながら住民の手で新たなまちをつくっていこうという思いを込めて、「記憶」と「未来」を大きな屋外アートで表現する「なみえアートプロジェクト」を実施しています。

農林水産・食の部

「農業」と「福祉」の連携で地域に仕事と居場所をもっと

認定NPO法人つどい
（代表者 川村美津子さん）

賞金 300万円

滋賀県長浜市で、農業と福祉をつなげる「農福連携」による事業を展開。パスやシイタケの栽培、せんべい作り、カフェ運営など、幅広い仕事があるため、様々な生きづらさを抱えている人も適材適所でみな発揮してくれています。

「保育」×「農業」で貢献 南魚沼の持続可能なまちづくり

株式会社南魚沼生産組合
（代表者 高堀雄一郎さん（左））

賞金 300万円

全国で保育園等を運営するどろんこ会グループと、南魚沼の農家がともに設立した南魚沼生産組合。耕作放棄された棚田を引き受け、減農薬でコシヒカリを栽培。お米は保育園の給食でいただき、園児の田植え・稲刈り体験も実施しています。

動物園・水族館のエサ代、動物ファンが楽しく支援

株式会社OHANA
（代表者 樋木悠さん）

賞金 300万円

お気に入りの動物を選んでエサ代を入金すると、返礼として動物が「食事」を楽しむ動画が送られてくるという動物園・水族館の応援サイト「HelloOHANA」を設立。立ち上げからわずか8カ月で、21組のエサを届けることができました。

厄介者の雪・もみがらを活用 岩見沢で野菜の周年栽培を

北海道岩見沢農業高校自然エネルギー班
（代表者 室永祐希さん）

賞金 200万円

豪雪地帯であり穀倉地帯である岩見沢で、雪やもみがらは厄介な存在でした。それらを活用し、夏場の農業用ハウスの冷却装置を開発。もみがらは冬場の暖房燃料や堆肥にも活用できます。野菜類の周年栽培の実現が目標です。

朝日新聞社は「SDGsジャパンスカラシップ岩佐賞」のメディアパートナーです。

第6回「SDGs岩佐賞」は、来月からエントリー開始！

応募期間　2024年 10月11日（金）～11月12日（火）

応募方法　「SDGsジャパンスカラシップ岩佐賞」の特設ウェブサイトから応募フォームに記入のうえ送信してください。
特設ウェブサイト https://sdgs-iwasazaidan.com

■お問い合わせ／「SDGsジャパンスカラシップ岩佐賞」事務局　TEL:050-3623-0751（10:00～17:30）　Mail: jimukyoku@sdgs-iwasa-zaidan.com

The Asahi Shimbun SDGs ACTION!
すべての受賞者の活動詳細、受賞コメントは朝日新聞SDGs ACTION！で公開中！
https://www.asahi.com/sdgs/brand/iwasasho/

公益財団法人　岩佐教育文化財団

財団の主な活動
- 大学生を対象とした奨学金給付活動
- 高校生を対象とした奨学金給付活動
- ナチュラル農業体験・環境教育活動
- 「岩佐賞」授与活動
- 災害支援活動